



西南部会 市民公開講座

「生活習慣病にどう向き合うか：

薬物治療の最前線」

日時：2004年11月27日(土)13:30～17:00，

会場：九州大学医学部百年講堂

第57回日本薬理学会西南部会長， 金出 英夫
市民公開講座実行委員長
九州大学大学院医学研究院 附属心臓血管研究施設



九州大学医学部百年講堂全景

(社)日本薬理学会西南部会・市民公開講座「生活習慣病にどう向き合うか：薬物治療の最前線」を、第57回日本薬理学会西南部会に合わせて、その翌日に九州大学医学部百年講堂にて開催致しました。九州大学医学研究院では、文部科学省21世紀COEプログラム「大規模コホートに基づく生活習慣病研究教育」が進行中であり、このプログラムとの共催と致しました。また、実施に当たっては、文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費の支援をいただきました。

生活習慣病については様々な情報が氾濫する中、この公開講座では、専門家の立場から正しい医学情報を一般市民に提供し、生活習慣病に関する理解を深めてもらうことを目的と致しました。特に、循環器疾患、高血圧、糖尿病、がんの4疾患を取り上げ、それぞれの専門の先生にご講演をいただきました。本来、生活習慣病は、生活習慣の改善が予防や治療の基本となる疾患群ですが、医療現場においては、薬物治療が重要な役割を果たすことも事実です。また、この市民公開講座が日本薬理学会の主催で開催されることから、講師の先生には、広く生活習慣病の予防と治療についてお話しただくとともに、「薬物治療」に視点をおいてもお話しいただきました。

循環器疾患について、九州大学大学院医学研究院・循環器内科学 砂川賢二教授から「心臓病に罹らないコツ、罹ったときに乗り切るためのコツ」を、最新の薬物治療の実例をまじえながら伝授いただきました。次いで、琉球大学医学部・循環系総合内科学 瀧下修一教授により、「脳心血管疾患の予防に向けて」、高血圧の予防と治療のお話をいただきました。両先生に対する会場からの質問が絶えず、予定より休憩を短縮して、後半の講演を開始しました。後半は、九州大学大学院医学研究院・病態制御内科学 名和田新教授より、「糖尿病の予防と血管合併症の克服」についてお話し

いただきました。最後に、九州大学大学院医学研究院・腫瘍制御学 片野光男教授より、「わたしはこうして「薬物治療」を選択する」というテーマで、がんの予防と最新の治療についてお話しいただきました。循環器、高血圧、糖尿病のお話をいただいた3人の先生が共通に、運動不足と脂肪摂取過多による肥満が、克服すべき最も重要な課題であるご指摘になっていました。また、片野教授が、がんの発生と成長に関する難しい基礎研究の成果を噛み砕いてご説明され、それに基づいてがん治療が目指す目標を、わかりやすくご説明になったことも印象に残っています。高齢社会においては、医療を受ける側と授ける側が「一人にならない、一人にしない」を目標に連携して、がんに限らず生活習慣病の克服に向かって行きたいと訴えて、講演会を終了致しました。

8月頃から広報活動を初め、福岡市内約160カ所の公民館、区役所、保健所、駅などの公共機関、高校、大学などの学校、および市内の主な病院に、合計ポスター1000枚、チラシ3000枚を配布しました。当日は、午後から晴天となり、約120名の方のご参加をいただきました。参加の約6割の方が50歳以上の方でしたが、10代、20代の方の参加もいただきました。3割の方がポスターを見て、3割の方が福岡市の情報紙を見ての参加でした。「最新の医学情報を、わかりやすく説明いただき、大変参考になった。医療に対する不安が多少とも解消された。今後も、このような最新の医療を知ることができる公開講座を続けて欲しい。」というご意見を多くいただきました。主催者としてこれ以上の喜びはありません。

最後に、ご講演をいただいた4人の先生を初め、ご支援を頂きました関係諸氏に、この場を借りて御礼を申し上げます。

(平野勝也 Katsuya Hirano)